

-8.6.10

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和 8 年 6 月 10 日

いわき市長 殿

提出者 独立行政法人 労働者健康安全機構
福島労災病院

住 所 いわき市内郷綴町沼尻3番地

氏 名 院長 齋藤 清

電話番号 0246-26-1111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	独立行政法人 労働者健康安全機構 福島労災病院
事業場の所在地	いわき市内郷綴町沼尻3番地
計画期間	令和8年4月～令和9年3月

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

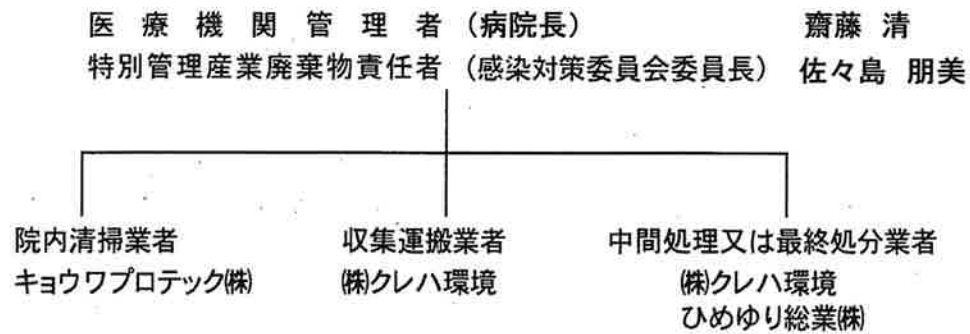
① 事業の種類	医療業(病院)
② 事業の規模	406床
③ 従業員数	483人
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	病院→清掃業者→収集運搬業者→中間処理又は最終処分業者

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	廃油（特廃油）	廃酸（有害）
	排 出 量	98.216 t	1.574 t	0.0 t
	（これまでに実施した取組） ・ 院内感染対策委員会での廃棄物処理状況報告 ・ 各職場（職員）への啓発・勉強会及び適正な処理に関わる指導			
②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	廃油（特廃油）	廃酸（有害）
	排 出 量	108.0 t	1.6 t	0.0 t
	（今後実施する予定の取組） ・ 院内感染対策委員会での廃棄物処理状況報告 ・ 各職場（職員）への啓発・勉強会及び適正な処理に関わる指導の継続 ・ 医療消耗品及び診療材料等に係る単回使用医療用具（ディスポーザブル製品）の効率的運用を検討			

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 感染性→職場ごとに指定、プラスチック容器に分別 ・ 特廃油→使用職場の専用容器に収納
②計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 感染性→職場ごとに指定、プラスチック容器に分別 ・ 特廃油→使用職場の専用容器に収納

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成 7 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 7 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（平成 7 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自 ら 埋 立 処 分 を 行 っ た 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自 ら 埋 立 処 分 を 行 う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成 7 年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	廃油（特廃油）	廃酸（有害）
	全 処 理 委 託 量	98.216 t	1.574 t	0.0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	98.216 t	1.574 t	0.0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t	t
	(これまでに実施した取組)			
	「院内感染対策マニュアル」及び産業廃棄物処理計画に基づき、 各職場へ適正に処理しているか巡回指導を行う			

②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	廃油（特廃油）	廃酸（有害）
	全 処 理 委 託 量	108.0 t	1.6 t	0.0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	108.0 t	1.6 t	0.0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t	t
	(今後実施する予定の取組) 令和6年4月には福島県より、今後、感染症病床の確保（20床）が求められていることを踏まえ、単回使用医療用具（ディスポーザブル製品）の使用方法について見直しを行い、リユースは原則行わない方法で効率的な製品の利用を検討し、合わせて感染性廃棄物と非感染性廃棄物の分別の徹底及び医療廃棄物の排出量の削減に努めることとする。			
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（平成 7 年度）実績】			
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		99.79 t	
	(今後実施する予定の取組等) 【電子マニフェスト導入計画】 ・令和2年 3月 電子マニフェスト導入作業 ・令和2年 4月 電子マニフェスト運用開始 電子マニフェスト運用に伴う感染性廃棄物処理計画書の一部改正（産業廃棄物管理票の交付変更） ・令和6年 3月 現在、電子マニフェストの利用を継続中			
※事務処理欄				

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。